

四万十市体験型観光受入研究会だより 先進地視察

3月13日(火)～15日(木)、体験観光の先進地である長崎県小値賀町の「おぢかアイランドツアーズム」と大分県別府市の「ハットウ・オンパク」の視察が行われ、当研究会の土居敬会長を含む幡多地域の観光関係者が参加して、実際の民泊体験、まちあるき体験を行いました。

これは、幡多地域ならではの観光資源や各種体験など、着地型旅行商品の提供者と、旅行者や旅行会社をワンストップでつなぐシステム作りを進めている「四万十・足摺エリア(幡多地域)観光圏協議会」の主催によるものです。

小値賀町は、もともと一次産業が中心で観光地ではなかったにもかかわらず、島全体を売り出すための取り組みに成功して、今や全国的にも観光地として有名になり、民泊体験の受入が進んでいます。

また、別府市は温泉を観光資源に民間事業者が中心となって事業展開し、滞在型・体験型観光の推進に成功し、この取り組み方法が日本全国に広がりを見せています。

この視察を通じて、土居会長か

ら「どの地域においても地域住民がこよなく地元を愛し、誇りを持つていて、自分たちの地域を何とかするんだ」という熱い想いもあった。またその話している時に目を輝やかせて話している姿が特に印象強かった。私たちの住む四万十市、ならびに幡多地域も、とても自然や人情の豊かな地域なので、これからも自信と誇りを持ちつつ、新しいことへチャレンジしていく気持ちも必要だと感じた」との感想をいただきました。



ガイドから小値賀島の神嶋神社について説明を受けるメンバー

【問い合わせ先】四万十市体験型観光受入研究会事務局(観光課) ☎(34) 1783